

MonthlyLetter

地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(平成27年度～令和元年度)
『地域創生の担い手を育み活気あるふくいを創造する5大学連携事業』
福井大学・福井県立大学・福井工業大学・仁愛大学・敦賀市立看護大学



令和元年度前期 集中講義「ふくいを知る・見る・考える」をご紹介します！

9月10日～13日の4日間、アオッサでの講義や、福井県を代表する企業の研究所を訪問しました。福井大学、福井県立大学、福井工業大学の学生120名が履修しました。前期の集中講義では、福井の自然や歴史、文化、産業など、広い範囲で福井の良いところを学びました。

なかでも、医療関係の講義を今年度初めて担当した、井階友貴教授(福井大学医学部 地域プライマリケア講座)は、福井県高浜町を全国にPRするために活躍するマスコットキャラクター「赤ふん坊や」の着ぐるみで登場され、高浜町での地域医療活動について紹介されました。

学生たちは、突然現れた「赤ふん坊や」に驚いていましたが、「医療づくりから健康まちづくり」に取り組む、先生の話に熱心に聞き入っていました。

2日目の企業訪問先の坂井市三国町テクノポート内にある「セーレン先端技術研究所」では、デジタルプロダクションシステムを取り入れた、ビスコテックスの最新技術を実際に見ることができました。

「ふくいを知る・見る・考える」は、福井の大学に通っているからこそ学ぶことができる地域の特色や活動を身につけてもらい、将来に生かしてもらおう！という趣旨で、年2回に分けて行われています。

後期は、福井県の企業が誇る「技術のイノベーション」を紹介する予定です。

(福井大学 地域創生推進本部 特命教授 吉田史朗先生より寄稿いただきました)



医療の授業に・・・

「赤ふん坊や」が登場！(その訳は！？)

ふくいCOC+フォーラム開催詳細が決定！申込み受付中(10/25まで先着順)

採用から育成までの新概念「プレイフル・クラッシュ」 - これからの時代に夢中になれる働き方 -

学生に地域企業の魅力を感じてもらうために、入社後の働き方・キャリアアップ、先輩社員との関係性など、「これからの時代に夢中になれる働き方」は何なのかを地域全体でもう一度考えてみるフォーラムを開催します。

これらの研究の第一人者である、同志社女子大学 現代社会学部 現代こども学科 特任教授 上田信行先生をお迎えして、講演を行っていただきます。

このフォーラムが、今注目されている「働き方改革」を考えるきっかけになればと思います。ぜひ、この機会にご参加下さい。



◆講師プロフィール:
上田信行(うだのぶゆき) 氏

同志社女子大学現代社会学部現代こども学科 特任教授、ネオミュージアム館長。1950年、奈良県生まれ。同志社大学卒業後、『セザミストリート』に触発され渡米し、セントラルシガン大学大学院にて M.A.、ハーバード大学教育大学院にて Ed.M. Ed.D. (教育学博士)取得。専門は教育工学。プレイフルラーニングをキーワードに、学習環境デザインとラーニングアートの先進的かつ独創的な学びの場づくりを数多く実施。1996～1997 ハーバード大学教育大学院客員研究員、2010～2011 MITメディアラボ客員教授。著書に『プレイフルシンキング仕事を楽しむ思考法』(2009、宣伝会議)、『協同と表現のワークショップ 学びのための環境のデザイン』(2010、共編著、東信堂)、『プレイフルラーニングワークショップの源流と学びの未来』(2013、共著、三省堂)、『発明絵本 インベンション!』(2017、翻訳、アノニマ・スタジオ)など。

【開催日時】 令和元年11月2日(土)13:00～16:00(受付開始12:30)

【開催場所】 福井大学 文京キャンパス 総合研究棟 I 13階会議室
(福井市文京3丁目9-1)

【WEB申込受付URL】 <http://www.allfukui-cocp.jp/event/entry-267.html>

【お問い合わせ先】 福井大学 総合戦略部門 地域連携推進課 小林、舟木
(TEL:0776-27-9945 E-mail:coc-p@ml.u-fukui.ac.jp)

(お願い)本稿記載のメールアドレスについては、※部分を「@」に変えてお送りください。

WEB申込は
こちらから！



高大連携の 取組紹介！

地域に根ざした、課題研究と人材育成の取組をご紹介します！

地域と協働し、生徒自身の自主性を基盤にして進められている福井県立若狭高校海洋科学科の課題研究を紹介する。

課題研究への取り組みは1年生から始まる。1年生では課題設定のために現在の海洋が抱える問題を広く考える機会を持つ。2年生になると、グループに分かれて自分たちで課題を設定し実験や調査を行う。まず地域の様々な人たちに前にその研究計画を紹介する。当然厳しい批判も受けるので課題や取り組み内容を修正する。そして自分たちで課題に沿った実験や調査を行う。私はその一つ、若狭湾沖合の底泥にマイクロプラスチック(以下マイプラ)があるかという課題にかかわっている。先輩たちが前年に水産試験場が採集したカレイの消化管からマイプラを発見した。彼らはそのカレイが生息していた若狭湾の水深260mから300mの海底の泥を取りたいという。高校の練習船で若狭湾の水深80mの地点から通常の方法で試みたが全く歯が立たない。しかし、富山県黒部川河口の漁師から自作の採泥器を借りて、水深260mの海底から泥を採集することに成功した。部活や学校行事で忙しい高校生が夏休みを返上して分析に取り組んでいる。最終的には京都大学の分析機器でマイプラかどうかの判定を行う予定である。



国際会議で発表する
福井県立若狭高等学校の生徒

この活動と併せて、海外5か国から高校生が集まるマイプラの国際会議での発表や国内学会でのポスター発表など果敢に外部への発信と交流の機会を持っている。

(ふくい水産振興センター 青海忠久センター長より寄稿いただきました)

ふくいCOC+事業の今後について検討始まる！～その2～

ふくいCOC+事業は5年間の文部科学省補助事業であり、今年度が一つの区切りとなります。今後の継続に関し、県内高等教育機関、福井県を中心に検討していることについては先月の8月号で報告した通りです。

一方で、8月末にCOC+事業責任大学に対して、文部科学省から来年度の概算予算の中で「COC+事業の流れを汲む新たな事業」の要求がなされていることの通知がありました。

新たな事業は「出口一体型地方創生人材養成システム構築事業」として、

- 地方創生に向けて、地域の知の拠点として高等教育機関が中心となり、人材育成機関として機能強化を図ること
- 人生100年時代においては、高等教育機関が多様な年齢層の多様なニーズに対して教育をできる体制を構築すること

を、課題として取り組むことが求められるもので、文部科学省は「COC+事業において構築された連携体制や地域志向科目、企業インターンシップ等の活用」することにより、実施を検討して欲しいとの意向であります。具体的な要件などは未定ですが、これまでのCOC+事業で得た知見をベースに前向きに対応していきたいと考えております。

【「出口一体型地方創生人材養成システム構築事業」について詳しくは文部科学省HPへ】

http://www.mext.go.jp/component/b_menu/other/_icsFiles/afieldfile/2019/08/29/1420671_06.pdf
(15ページ「出口一体型地方創生人材養成システム構築事業」)

http://www.mext.go.jp/component/b_menu/other/_icsFiles/afieldfile/2019/08/29/1420670_08.pdf
(26ページ「出口一体型地方創生人材養成システム構築事業」)

(福井大学 総合戦略部門 地域連携推進課 COC+コーディネーター 舟木)

編集後記

9月に入ってから、厳しい残暑もやわらぎだいが過ぎやすくなりました。ふくいCOC+事業も最終年度を迎えラストスパートです。11月開催のフォーラムをはじめ、今後のイベントを盛り上げていく事で、少しでも多くの皆様にCOC+事業を知っていただけるよう最後までがんばりたいと思います。そして、来年度以降この事業が花となり実となり地域創生に役立っていくことを願っております(飛山)

